

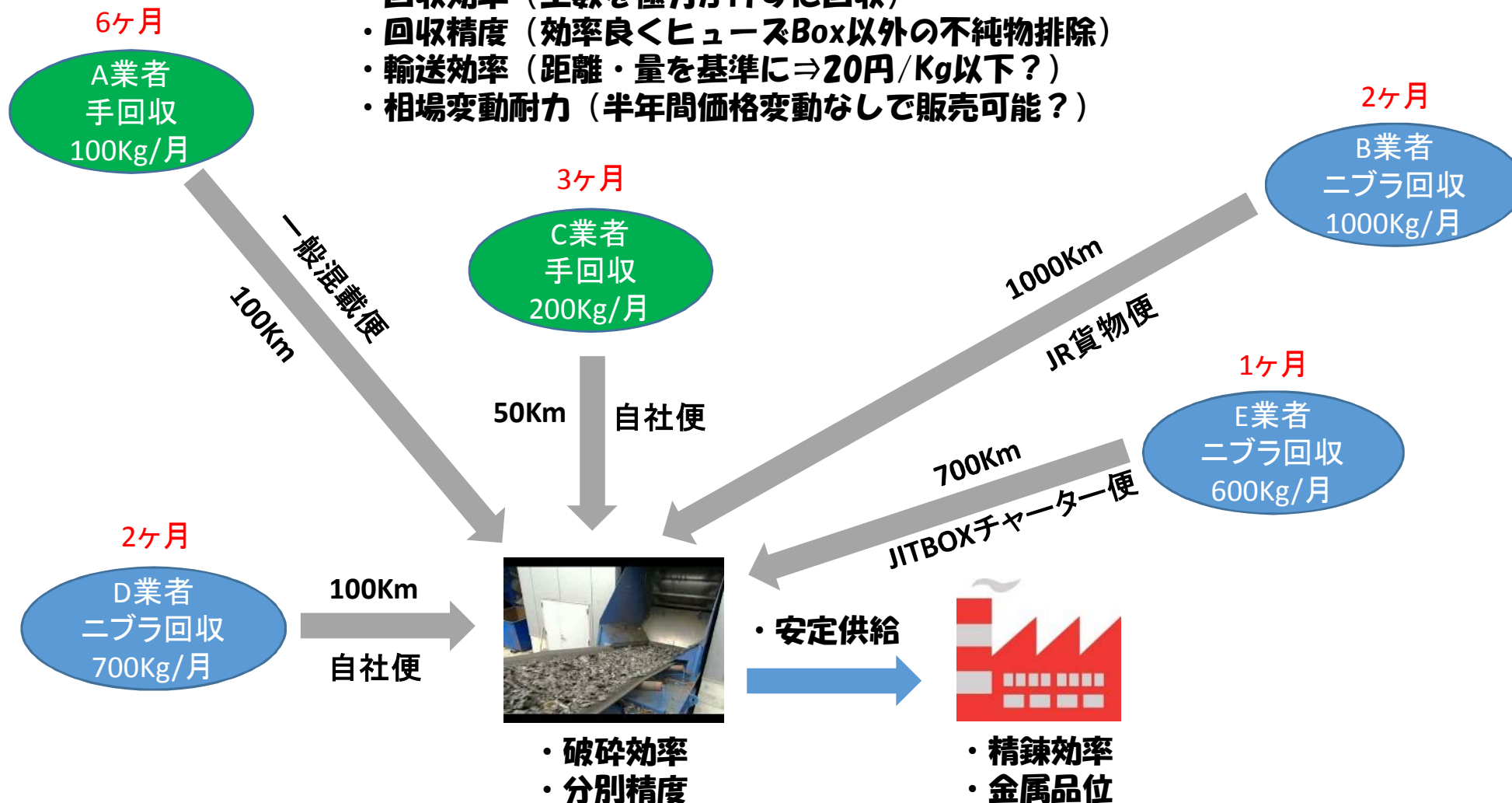
ヒューズBoxリサイクル研究

研究ポイント	<ul style="list-style-type: none"> □従来、雑品として扱われている「ヒューズBox」の資源リサイクル研究 □小規模事業者でも安定的にビジネスが出来る「ビジネスシステム」の開発
目的	使用済自動車から回収したヒューズBoxからの資源リサイクル技術&ビジネスシステムを確立する
背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 従来ヒューズBoxは、資源価値が低いため、使用済車から回収されないままプレスガラになっていたり、回収されても雑品として取り扱われてきた ✓ 最近使用済となる車は、電子系部品が多数使用されているためヒューズBoxも変化しているものが増えつつある。それに伴い、ヒューズBoxも非鉄金属使用量が増えており資源価値も上がってきている ✓ 国内資源循環の観点からも、ヒューズBoxからの非鉄金属や樹脂のリサイクルは必要性が高い ✓ ヒューズBoxは使用済車1台から1個は回収できるが、保管効率が良くないため、数ヶ月ストックしておくことは得策でなく、1~2ヶ月以内に出荷できるシステムが必要である ✓ 同時に、輸送効率も悪いため物流の開発も必要である
構想	<p>【ヒューズBox資源リサイクル技術】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 丸本鋼材の開発した「破碎・分別技術」は、効率の良い非鉄金属回収が可能であり、これを活用する 2. 安定的な重量単価で購入するための研究を、Step1として推進する <ul style="list-style-type: none"> ・事業者(回収方法)変動・地域変動・物流コスト変動・非鉄金属相場変動など <p>【ビジネスシステム開発】⇒Step2として展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回収ヒューズBox仕様決定 2. 共同回収の仕組みと物流コスト低減の開発 3. 日本全体での最大効率リサイクル拠点およびシステムの開発
部会構成	<ul style="list-style-type: none"> ● 解体事業者⇒対象部品を使用済車から効率よく回収(&前処理) ● リサイクル事業者⇒丸本鋼材 ● 集約拠点事業者(回収or解体事業者)⇒参画解体事業者からヒューズBoxを回収→束ね→出荷 ● 物流業者⇒共同出荷集約拠点事業者~リサイクル事業者の物流 ● コーディネーター⇒JVR事務局

ヒューズBoxリサイクル研究構想 : Step1

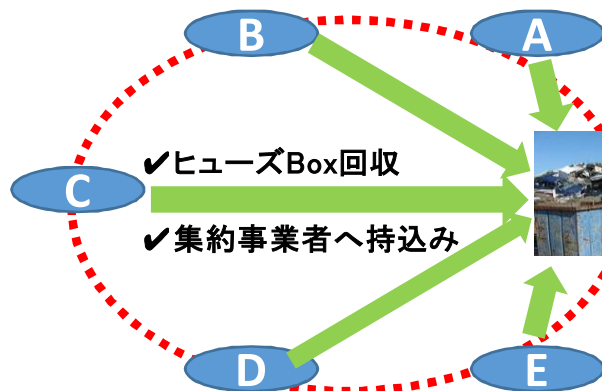
《安定的な重量単価で取引できるための研究》

- ・回収効率（工数を極力かけずに回収）
- ・回収精度（効率良くヒューズBox以外の不純物排除）
- ・輸送効率（距離・量を基準に⇒20円/Kg以下？）
- ・相場変動耐力（半年間価格変動なしで販売可能？）



《共同回収システム研究》

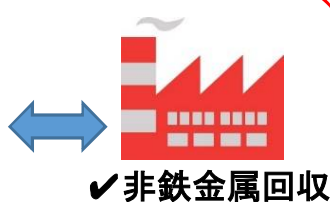
共同出荷
参画事業者



共同出荷
集約事業者

- ✓ 参画事業者持込分の重量計測
- ✓ 按分率計算設定
- ✓ 輸送手配・出荷
- ✓ 売上確認・入金受領
- ✓ 参画事業者へ按分・支払い

破碎・分別・精錬



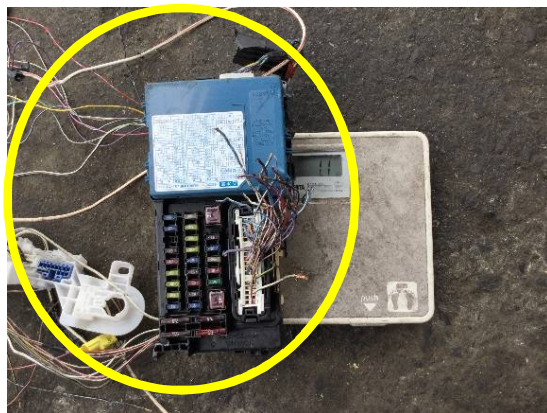
- ✓ 受入れ重量計測・支払い
- ✓ 非鉄金属リサイクル



最大効率で資源循環が可能な
リサイクル拠点構想

ヒューズBox回収内容

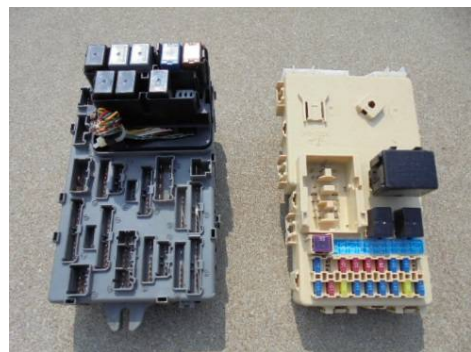
ニブラ回収状態



手バラシ回収状態



室内ヒューズBoxを回収すると、ハーネス、カプラーなど周辺の装着物が一緒に回収される。このままの状態での計量・出荷でも可である。但し、破碎・分別・精錬に影響する不純物は受入れ時チェックし、受入れ重量を削減する。



ニブラ回収、手バラシ回収したものに一緒に付着していたハーネス、カプラーなどを切り取って、ヒューズBox単体にした状態。この状態で計量・出荷することが理想形である。但し、対象ヒューズBox以外のものが混入した場合には受入れチェック時に除くが、どのような物が除去対象かは研究の中で確認していく